

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

マガレイ（日本海）

（抄録）

小向 貴志

はじめに

第Ⅰ期対象魚種マガレイの資源管理後の漁獲動向を把握する。

材料及び方法

日本海沿岸 8 漁協（脇元、十三、車力、赤石水産、大間越の 5 漁協を除く）の漁獲量と金額を月別漁法別に調べた。また、鰯ヶ沢漁協の沖合底曳における銘柄別漁獲量・金額を調査した。さらに、大戸瀬漁協における銘柄「小カレイ」の魚種組成を調査した。

結 果

1993 年以降の日本海海域におけるマガレイの漁獲量は 1995～1996 年に大きく減少 1997 年以降横這いに推移した。1999 年の漁獲量は前年比 122%の約 57 トンであった。

1999 年のマガレイの漁獲金額は 4.830 万（前年比 95%）であった。

漁協別漁獲量・金額

鰯ヶ沢・大戸瀬漁協が量・金額ともに多く、2 漁協で全体の約 6 割を占めた。

月別漁獲量・金額

1～3 月と 9 月に漁獲のピークがみられた。この期間で 1999 年は数量は 67%、金額は 65% を水揚げしていた。

漁業種類別漁獲量・金額

定置網による漁獲が量・金額とも 1999 年は半分以上を占めていた。

鰯ヶ沢漁協の沖合い底曳網による銘柄別漁獲量・金額・単価

漁獲量は 1993～1997 年は銘柄「大」が最も多かったが 1998～1999 年は銘柄「小」が最も多かった。

銘柄別漁獲金額は 1993～1999 年をとおして「大」が高く、全体の半分以上を占めていた。

銘柄別単価は「大」が最も高く、1,502 円/kg であったが、1993 年以降下落傾向にある。

大戸瀬漁協の「小カレイ」に占める魚種組成

マガレイはおよそ 7 割を占めていた。

発表誌：平成 11 年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書：平成 12 年、青森県